

## 2023 年度日本海洋学会総会議事録

日時: 2023 年 5 月 23 日 (火) 17:30~19:00

場所: : 幕張メッセ国際会議場 103 号室 および Zoom を利用したハイブリッド開催

出席者: 現地参加 24 名、オンライン参加 36 名、委任状 144 名、計 204 名

### 1. 開会

開会に先立ち、中野集会担当幹事より、学会会則第 4 章第 28 条の規定による定足数に達しており、総会の成立要件を満たしている旨報告があった。

### 2. 議長選出

根田昌典会員を議長として選出した。

### 3. 会長挨拶(江淵会長)

総会開催に先立ち、江淵会長より挨拶があった。日比谷紀之会員が IUGG Elected フェローに選出された件、中村尚会員と西岡純会員が令和 5 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(研究部門)を受賞した件、第 5 回西田賞を田村岳史会員と山下洋平会員が受賞する件が報告され、祝意が示された。法人化についての目標について述べられた。2023 年度の秋季大会は京都大学の会員が主催で、京都大学にて対面で開催される予定であることが述べられた。ようやく新型コロナ感染に関する制限が弱まり、対面で大会参加が可能になった一方でオンライン参加の便利さも選択肢として残して行くなど今後の方向性についてもいろいろと考える必要について述べられた。会員数減少傾向に関して若い方の参加を促していきたいという意向が述べられた。

### 4. 審議事項

#### 1) 2022 年度事業報告並びに決算報告について (岡(顕)幹事・野口幹事)

2022 年度事業ならびに決算について報告された。

#### 2) 2022 年度監査報告について (日比谷監査)

2022 年度の会計処理が適切に行われていたことを確認した旨報告があった。監査報告を踏まえ、2022 年度事業報告、決算報告、監査報告が承認された。

#### 3) 2023 年度事業計画並びに予算案について (岡(顕)幹事・野口幹事)

2023 年度事業計画並びに予算について提案され、承認された。

#### 4) 法人化について (江淵会長)

法人化のスケジュール案が提案され、承認された。

定款案、細則案について提示され、6 月末までコメントを募集することが述べられた。

#### 5) 会則の改正について (岡(顕)幹事)

学生会員に関する会則の改正(学生会員の定義及び会費の変更)について提案され、承認

された。細則の改正(岡田賞受賞の年齢緩和に伴う変更)についても報告された。

## 5. 報告事項

### 1) 会務報告

#### 庶務 (岡(顕)幹事)

2022年4月から2023年3月の会員の異動状況について報告された。

#### 編集

##### ①JO (齊藤編集委員長)

JO Vol.77(1)から79(3)までの発行状況について報告された。2017年度から2022年3月までの投稿・受理状況について報告された。特別セクションの編集状況について報告された。

編集委員のジェンダーバランスの改善検討、および特集号、レビュー論文の依頼をすすめたいという意向について報告された。

##### ②海の研究 (久保川編集委員長)

2022年度の実績及び2023年度の報告について報告された。海の研究へ投稿しやすくなる取り組みをすすめる意向について報告された。

##### ③JOS ニュースレター (岩本編集委員長)

2022年度の実績、2023年度の実行予定について報告された。JOSの国際標準逐次刊行物番号(ISSN)付加の申請を行っていることが報告された。

#### 研究発表 (土井幹事)

2022年度の秋季大会は初めてのハイブリッド形式にて開催されたことが報告された。

2023年度の春季大会はJpGU2023の中でハイブリッド形式にて開催されることが報告された。

2023年度の秋季大会は京都大学会員により、京都大学を開催地として完全対面形式で実施されることが報告された。

#### 賞選考

##### 学会賞・岡田賞・宇田賞 (江淵前委員長)

選考過程および選考結果について報告された。

##### 日高論文賞 奨励論文賞 (濱崎前委員長)

選考過程および選考結果について報告された。

##### 環境科学賞 (藤井前委員長代理)

選考過程および選考結果について報告された。

##### 吉田賞 (升本前委員長)

選考過程および選考結果について報告された。

#### 選挙管理 (中野幹事)

役員投票、各賞可否投票および賞選考委員選挙結果について報告された。また、役員投

票はオンラインで行われたことが報告された。

#### 広報委員会（川合委員長）

2022 年度の活動について報告された。新しい取り組みとして Web サイトに新コンテンツ：海について学ぶ Web ポスター「わたしたちの生活を支える海」を追加、ついて報告された。2023 年度の活動予定について報告された。

#### 海洋環境委員会（野口委員長）

2023 年度の新体制および、「青い海助成」事業に一件応募があり採択されたことが報告された。

#### 海洋観測ガイドライン編集委員会（長谷川委員長）

2022 年度は和文第 5 版、英文第 5 版の原稿の収集・編集したことが報告された。

2023 年度は和文第 5 版の出版、改訂・追加事項の検討の予定であることが報告された。

#### 西南支部（中野俊也支部長）

2022 年度はニュースレター 52 号の発行、ホームページの更新、維持管理、支部会連絡会等を実施したことが報告された。

#### 海洋環境問題研究会（福田研究会会長）

海洋環境問題研究会の総会が 5 月 17 日開催され、福田会長の再任を推薦されたことが報告された。

秋季大会で 50 周年日記念として本研究会主催のシンポジウムを開催予定であることが報告された。

#### 沿岸海洋研究会（速水研究会会長代理）

2023 年度春季周期沿岸海洋研究会を 4 月 19 日オンラインにより実施したことが報告された。

沿岸海洋研究の 2022 年度の発行状況および 2023 年度発行予定が報告された。

2023 年度日本海洋学会秋季大会期間中に沿岸海洋研究会シンポジウムとして「閉鎖性海域における貧酸素水塊の現状と未来一長期変化と物質循環との関わり」を開催予定等が報告された。

#### 海洋生物学研究会（田所研究会会長代理）

「海洋生物シンポジウム 2023」を 2023 年 3 月 20 日にハイブリッドにて開催したことが報告された。また同日運営委員会を開催したことが報告された。

#### 教育問題研究会（川合研究会会長）

2022 年度は、海のサイエンスカフェ、女子中高生夏の学校 2022、JpGU 教員免許状更新講習への講師派遣、海洋教育の普及・実践のためのネットワーク作り、サイエンスアゴラ 2022 への出典、「海の出前授業」講師派遣事業、大学施設を利用した海洋教育の実践等の活動を実施したことが報告された。

関連学協会の連携の強化について報告された。

2023 年度の活動計画が報告された。教育問題研究会 20 周年を記念して、COSIA（海

洋科学コミュニケーション実践講座)を再開する予定が報告された。

ブレイクスルー研究会(茂木研究会会長)

海洋学会ブレイクスルー研究会の解散の発議書が出され、2023年3月31日をもって解散することが幹事会で承認されたことが報告された。

研究に関する将来構想WG(岡(英)幹事)

パート2として海に興味を持つ一般向けの記事作成等の活動を行う予定であることが報告された。

リクルート戦略WG(渡部幹事)

Google formを通じた進路についての問い合わせに合計22件に対応したことが報告された。

## 2) 学会関連報告

学会動向(原田副会長)

学界関連の動向について報告された。詳細についてはJOSニュースレターに掲載される。

科学全分野対象の賞に学生や若手研究者の推薦を積極的に行っていくと報告された。

第4次海洋基本計画が4月28日に閣議決定されたと報告された。

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想の応募が始まったことが報告された。

「海洋」をテーマにした、CREST, さきがけの課題が立ち上がったことが報告された。

水産・海洋科学研究連絡協議会(江淵会長)

6月16日に協議会が開催予定との報告があった。

以上